

# 開催主旨

約 30 年前、南アルプスの中心である北岳周辺地域は、国内でも有数な生息密度の高いライチョウの楽園でした。しかし、今、この地域のライチョウは激減し、絶滅の危機に瀕しています。また、ライチョウが生息する高山帯はニホンジカなどの野生動物の侵入により、貴重な高山植物の食害などの被害が拡大し、その環境は存続の危機を迎えています。

また、南アルプスは世界最南端のライチョウの生息地であり、人類が直面する危機である地球温暖化による影響を非常に受けやすい地域でもあります。

このような中、昨年 2012 年、国はトキやコウノトリと同じく「種の保存法」に基づくライチョウの保護増殖事業の実施を決定し、その保護対策は新たな段階を迎えることとなりました。ライチョウを守ることは、高山帯の環境や人類の未来を守ることに繋がります。

ライチョウを野生絶滅となった第三のトキ、コウノトリにしないために、全国の研究者、民間団体、行政関係者などが、南アルプス市に集い、ライチョウの生息と生息地の状況、保護・保全の取り組み、そして、新たな段階を迎えた保護対策などについて市民の皆様と共に考えていきます。

## プログラム

### 1日目ワークショップ（研究発表・意見交換会）

11月3日(日) 13:00~17:00

- 第1部 南アルプスと北アルプスにおけるライチョウの生息状況
- 第2部 乗鞍岳など独立峰における生息状況
- 第3部 温暖化によるライチョウへの影響と  
高山帯へのシカなどの野生動物の侵入による植生への影響

### 2日目ワークショップ（研究発表・意見交換会）

11月4日(月) 9:30~12:00

- 第4部 生息現地での保護対策（域内保全）
- 第5部 動物園でのスバルライチョウの飼育・繁殖（域外保全）
- 第6部 「種の保存法」によるライチョウの保護増殖事業について

## 第14回ライチョウ会議山梨大会 公開シンポジウム

11月4日(月) 12:50~16:30

テーマ 「ライチョウ保護と高山環境の保全ー新たな段階へー」

\*主催者挨拶 中込博文（南アルプス市長）

\*記念講演 未定

\*基調講演 「ライチョウの現状と課題」 中村浩志（信州大学名誉教授）

\*パネルディスカッション（15:10~16:30）

コーディネーター：増沢武弘（静岡大学理学部特任教授）

パネラー：・ 環境省

- ・ 中村浩志（信州大学名誉教授）
- ・ 朝倉俊治（静岡ライチョウ研究会）
- ・ 廣瀬和弘（南アルプス市みどり自然課）
- ・ 清水准一（芦安ファンクラブ）

